



第 16-7 号 米国における新設銀行

1. 米国の新設銀行とその理由

アメリカではこの 20 年間で約 4,000 行、つまり年間平均すると毎年およそ 200 行もの銀行が新設されています¹。日本では、この 20 年間を見ても先日の東京都の銀行や 3 つか 4 つのインターネット専業銀行が新設されたくらいですし、全体の数でも銀行と信金をあわせても 400~500 行しかありませんから、毎年平均 200 行の新設銀行というのは大きな数です。

米国に新設銀行が多い背景としては、米国の銀行界でも規制緩和などにより、銀行の合併・統合はアメリカでも急速に進行していますが、一般的に言うとアメリカでは銀行が合併して大きくなると、コスト削減のために支店を閉鎖するなど地元に対するサービスが低下する傾向があります。また、アメリカは合衆国というだけあって、昔から地元志向が強く、中央集権を嫌うカルチャーがあります。このため、地元の銀行が買収されてしまうと、例えば買収された銀行の銀行員が中心となり、引き続きその地元のお客さんのためにサービスを行う銀行を新たにつくることが多くあります。もちろんそれだけでなく、銀行新設の理由は様々です。

2. 米国の新設銀行の例

(1) ブルーバレー銀行

米国中央部のカンザスシティの近くにあるブルーバレー銀行という銀行は、約 15 年前の 1989 年に現在のレニヤー頭取が新たに創った銀行です。そのレニヤー頭取にお話を伺ったところ、当時その方がお勤めになっていた銀行が大銀行に買収されることになったのですが、買収後の新しい銀行でその方に割り当てられた仕事が自分のやりたい仕事ではなかったため、トラックのトレーラーを改造して銀行を作り、新しく自分の銀行を始めたそうです。もちろん最初からお客さんが多かったわけではありませんが、その銀行は今ではインターネットを使って住宅ローンを全米のお客さんに提供しており、急成長しています。

(2) ショア銀行

こちらは新設銀行といっても、30 年前のことですが、中西部シカゴ市の南は黒人が多く、所得水準も低い地区なのですが、その貧しい地区の開発・復興を支援するような理想的な銀行を作ろうと地元の 4 人の銀行員が、1973 年に以前からあった銀行を買収する形で新たに始めた「ショア銀行」という銀行があります。このショア銀行の理念をビル・クリントン前大統領がアーカンソー州知事時代に注目し、このような地域開発に貢献する銀行を全米に作ることを選挙公約の一部とし、1992 年の大統領選挙で、当時現職のお父さんの方のブッシュ大統領に勝ちました。そして

¹ データ出典：連邦預金保険公社。厳密にいうと、1984~2002 年の 19 年間に商業銀行およびスリフトを合計して 3,789 行（平均 199 行）が新規に免許を受けている（他業態からの転換は含まない。）

実際に、クリントン政権は 1994 年に地域開発銀行を支援する基金を設置しました。今では、こうした地域開発銀行は全米に広がっています²。



ブルーバレー銀行（左）とショア銀行（右）

(3) ファースト・バンク・アンド・トラスト

一方、同じシカゴ地区でも北の郊外にあるエバンストンという町は、ノースウェスタン大学という著名大学のある、比較的豊かな地区です。そのエバンストンにあるコミュニティバンクのファースト・バンク・アンド・トラストは、ヨハナン頭取が中心になって 1995 年に設立された比較的新しい銀行です。ヨハナン頭取のお話によりますと、当地のお客さんの多くは、大銀行の画一的なサービスに満足していなかったため、新たに顧客本位のコミュニティバンクを設立すれば、地域の顧客ニーズに応えられると考えたそうです。実際に、レベルの高い顧客サービスに努めた結果、ゼロから始めたその銀行は、9 年目の今ではエバンストン市の預金マーケットシェアの約 20% を獲得しています。

3. 米国の新設銀行の背景

アメリカでは、起業家精神を持った人が多いことはもちろんですが、環境としても自由な発想が受け入れられる土壤があると思います。もちろん新設銀行は一般的には、昔からある銀行よりもリスクが高く、破綻する場合があります。例えば、店舗を持たないインターネット専門銀行で、事務はすべて外注しているため銀行の常勤職員はゼロ、かつ信用力の低い人へのリスクの高い貸付が業務の中心、というかなり特殊な銀行が 2002 年に破綻しました。この銀行の破綻の際に、このようなあまりに特殊な銀行を監督官庁が認め、しかも預金保険の対象とすることはいかがなものか、といった議論もあったようです。しかしながら、監督官庁としては、前例がないからと言って頭から却下するのは簡単ですが、ビジネスのスタイルが新しいからといって否定しては新たな革新・イノベーションは生まれない、という考えを持っていたように思います。何事にもプラスとマイナスがありますが、全体としてみてプラスになればそれでよい、という考え方が

² Bronstien, B. F., “Losers Hit Treasury on Community Lending Grants Series,” *American Banker* New York, N.Y. Aug 7, 1996. Vol. 161, Iss. 150; pg. 6

お役所側にもあるように思います。銀行業界に限らず、新しい考えをもった新規参入があるからこそ競争が活発になり、産業自体も活性化しているとも考えられます。

(文責：ニューヨーク駐在シニアアナリスト 青木 武)

[戻る](#)

取材協力： ブルーバレー銀行、ショア銀行、ファースト・バンク・アンド・トラスト、連邦預金保険機構（FDIC）コンファレンス

（文中意見にわたる部分は筆者の個人的意見であり、必ずしも信金中央金庫の見解を反映させたものではありません。本レポートは、掲載時点における情報提供を目的としています。したがって施策実施・投資等についてはご自身の判断によってください。また、本稿は、執筆者が信頼できると考える各種データ等に基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。）